

グループ活動紹介

北海道タグチメソッド 研究会

アングルトライ(株) 手島昌一

Group
Activities

北海道の空の玄関口“新千歳空港”に降り立つと、北海道というブランドの価値に気付かされる。農畜産品、水産品をはじめとする食品や観光資源のブランドである。他方で、ものづくり分野は本州と比較すると気候や距離的な制約もあり、やや遅れている面もあった。しかし、製品はあまり目立たないが、自動車企業のテストコースや寒冷地における環境評価施設は多い。また、自動車関連の組み立てや部品製造企業もある。さらに、夕張メロンなどのように工業製品のような品質管理を求められる農産品も多い。

北海道タグチメソッド研究会は1998年に発足し、今年で16年目を迎える。2001年には千歳の(株)ダイナックスで品質工学会の企業交流会も開催した。一昨年、活動の見直し期間として1年ほど休会したが、2012年8月から再開した。再開の方針は、「聞くばかりではなく実践しよう」ということである。それまでの研究会では、本州から品質工学の経験豊富な方を講師としてお招きし、さまざまな情報を聴かせていただくことが多かった。もちろんそれも重要なことだが、やはり自らが実践しないとせっかくの品質工学が活きてこない。

活動は2か月おきに、主に札幌市にあるアングルトライ(株)で開催している。札幌近郊の製造企業、ソフトウェア企業や北海道の企業支援組織から、毎回10名ほどが参加している。ただ、北海道は広い。企業が存在する地域には札幌圏のほか、道南、道北、道東までである。北海道の各地から札幌に集まるのは容易ではない。品質工学は、工業製品だけではなく、農業生産システムの高度化に適用できる可能性が高い。

そこで、当研究会ではネットワークでの会議システムを活用して、距離的な課題を解決できないかと検討を進めている。道内外の複数個所をネットで結び、テレビ会議のような形態で研究会を進めるのである。幸い、研究会メンバーにはネットの専門家も居り、テストを開始したところである。地理的な距離をゼロにすることができるので、この方法が成功するとさまざまな可能性が広がる。

この半年間ほどの活動で取り上げたテーマは、MTシステム、生産工程での課題などである。農業へのIT導入を課題とするメンバー居るので、北海道らしいテーマを積極的に議論してゆきたい。工業はもちろん重要だが、北海道全体が国際競争力を持つためには、何と言っても北海道ブランドを支える農畜水産業も重要である。工業生産と農業などの生産との相違はかなり小さくなっている面もある。北海道がその意味での新たな実験場にもなり得る。

田口博士が北海道に最初に訪れたときに取り組みされたテーマは、農学・林業分野だったそうである。工学を横断する工学として品質工学の適用範囲は広く、さまざまなテーマへの適用を実現してゆきたいと考えている。